

●10月30日 京の川の恵みを生かす会が「食味会」を開催しました。アユの塩焼き ブラックバスの唐揚げ ハゼの唐揚げ ウナギのかば焼き 鯉こくやビワマスの造り、イワナの塩焼き等が用意されていて満腹出来ました。この活動を始めてから今年は3番目になる捕獲量で、豊かなアユが各地で捕獲されていました。本日用意出来たアユは昨日捕獲したもので、生のもので皆さんの沢山食していただけたと思います。桂川の磯部（保津川漁業協同組合長）さんは網を水に入れる間もなくかかってきたので外すことが連続したので腰が痛くて痛くてとおっしゃっていました。



開会のあいさつに引き続いて淀川水系の各漁業組合の理事長が挨拶をされました。保津川や桂川・鴨川・京淀川から挨拶が続きました。残念ながら木津川漁協組合からは挨拶がありませんでした。大阪湾から遡上してきた天然ものがそれぞれの河川に遡上してきてまさにこの時期に産卵しようとしてきているのです。谷口信彦先生のお話だと 500 万円をかけて放流されているが南山城村まで遡上できるようになれば 5000 万に成長する条件があるとおっしゃっていました。私は以前恋路橋上からアユが群れているのを確認して実感をしたものです。また淀川の大堰で確認したアユの大半が木津川に向かっているらしいとも竹門先生から伺ったことがあります。アユに関してのお話ですがその他の多くの魚にとっても優れた川環境を木津川は持っているのではないのでしょうか。

● 10月31日 摂南大学で現代社会学会の部会が開設されるにあたって体験学習の場に里山の会が協力いただけないかと就任予定の稲生勝（現岐阜大学名誉教授）氏が野村治（里山の会員）とご一緒に来訪されました。対応させていただいたのは大村 森島 播川 太田 山村でした。里山の会の活動紹介の後、稲生氏から学生が現地での体験（農業商業等）をすることによって学び取ることが今必要で、それに取り組むことになる。学部開設まで時間が有るので学ばせる内容や人数などについてはこれからなので検討してゆきますとのことで、本日はご挨拶に来たということでした。里山の会では以前、近畿大学や同志社大学からインターンシップとして数人の学生さんが年間 20 時間ほど参加され、共に学びあう場がありました。後日の事務局会議で振り返ってみると受け入れてみる方向で学んでもらう内容についてまとめてはどうだろうか、年間作業について実行している作業をまとめておこうと話になりました。しかし現時点では先生から具体的な指摘がない中での対応には疑問があるといった意見がありました。しかし作業内容をまとめて先生に具体的に示しておくことも大切ではないかと一致しました。

●桂川（嵐山）での竹蛇籠が完成していますので11月7日には蛇籠を本川に設置し、流されないように竹蛇籠に杭を打つことになります。保津川漁協（磯部）さんは午前7時からユンボを稼働させて設置場所付近に河原の石を集め始めるとの予定だそうです。先日一本の竹蛇籠の体積は約8m³で、二本ですので高さ2mの幅2m長さ4mの石が必要となります。3か所に設置ですのでかなりの量を必要となります。石拾い集めは11月7日に行われます。そして11月17日と18日に石詰めが行われ、18日には竣工となります。いずれの日も作業開始は朝9時から実行される予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

場所は嵯峨美術大学前の桂川河川敷です。駐車場は十分ありますのでご安心ください。

●里山の会事務局会議から

これまでの事務局会議は次週のイベントに集中しての準備態勢について論議が行われてきましたが、今後年度方針の具体化としてできるだけ3ヵ月前のイベントや予定について議論を始められるよう改善しようと話し合いました。諸団体からも要項の問い合わせがありますし、会場の確保も3ヵ月前から受け付けるところがありますので、また参加される皆さんも予定が立てやすくなることを計算してのことです。事務局メンバーの皆さんには大きな変化になりますが、これが実際に動き出したら素晴らしいことだと思います。

●11月の予定

- 3日 会誌53号印刷 製本 発送。
- 4日 桂川（嵐山）竹蛇籠の杭運び込み。京田辺市市民祭り・展示物掲示。
- 6日 市民祭り展示物撤去。
- 11・12日 桂川（嵐山）竹蛇籠石詰め支援
- 12日 竣工
- 12・13日 竹蛇籠製作用真竹納入受入れ。竹割作業実施
- 19・20・26・27日 京都大学宇治川ラボラトリーで竹蛇籠製作講習会9本。
- 27日 里山農園同志社大学ボランティア組織 遊歩道づくりに来所10人くらい。

これ以外に毎週火・土には里山農園作業日にしています。こぞってお越しください。お待ちしております。週刊ニュースをご覧くださいね。

●小川芳也さんの松江通信 No. 5

今週からは「八岐大蛇退治伝説（やまたのおろちたいじでんせつ）」に触れていきますが、歴史に疎い浅学な著者のため、間違いや歴史を誤って理解していることが多々あると思います。ご指摘いただければ出来得る限り修正を加えていきますので、宜しくお願いいたします。

この伝説が記録されているのは、古事記（奈良時代：712年（和銅5年）完成、元明天皇）と日本書紀（奈良時代：720年（養老4年）完成、元正天皇）です。古事記は現存する最古の歴史書で上・中・下の3巻にまとめられており、神代（神武天皇即位以前）～推古天皇（628年）までを記録しています。日本書紀は「古事記」と同様に現存する最古の歴史書のひとつとされており神代～持統天皇（697年）までを30巻に記録しています。

同年代に2つの歴史書が登場していて取り扱っている年代が重複しているので「違いはなんだろう？」とインターネット検索したところ多くの方々が公表しているので、興味のある方は調べてみてください。この続きは次回に…